

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
平成30年6月号

野菜ニュース



主要野菜品目の産地間連携の取組状況と今後の方向について

公益社団法人千葉県園芸協会
産地振興部 主幹 田中 雄一

協会では、平成26年度から県や全農千葉県本部、関係JA等をメンバーとして、本県産主要野菜7品目を対象とした産地間連携の取組を行っています。

取組開始から4年が経過し、到達目標に向けて、各品目で成果が現われています。今回は、これまでの主要な成果と今後の取組の方向について御紹介します。

1 取組の概要

この取組は、近年の量販店や業務加工需要などの大口需要に対応するために、関係者が戦略的に連携し、オール千葉体制による生産力・販売力強化に向けて進めているものです。

具体的には、平成26年度から全農千葉県本部、県、JA、市場、当協会を構成員として、これまで、7品目（トマト、ねぎ、にんじん、さつまいも、だいこん、キャベツ、きゅうり）の協議会を立ち上げ、出荷規格の統一や品種別販売方針の策定、品質向上のための栽培技術改善対策などに取り組んできました。

2 取組状況と今後の取組方向について

活動の成果などの取組状況と今後の方向性を表に要約しました。

これまでの取組により、トマトの等階級呼称の統一や共通着色基準の導入、4月から5月に出荷する「プレミアム夏ねぎ」の生産拡大、さつまいもの品種別販売方針の作成と励行、秋冬にんじんの出荷規格L階級の一箱入数統一など、着実に成果が現われています。

今後も、引き続き関係者と力を合わせて、出荷規格の統一や新産地の育成、品質の安定化、ロット拡大などに向けた産地間連携の取組を進めてまいります。

表 取組状況と今後の取組方向

品目	取組状況（主な成果など）	今後の取組方向
トマト	・出荷等階級呼称の統一 ・共通着色度合いでの出荷による品質平準化	品質の安定化と生産拡大
ねぎ	・「プレミアム夏ねぎ」の生産拡大 ・県内出荷スケジュールの策定による計画出荷の推進	周年における高品質生産と安定出荷
にんじん	・秋冬にんじんに係る出荷等級L級の一箱入数の統一 ・主要JAによる出荷小袋のデザイン・JANコードの統一	全国有数の生産量を生かしたロットの確保
さつまいも	・品種別販売方針の策定と方針による出荷の実践 ・出荷等級L級の一箱入数の統一	品種別販売方針に基づく計画出荷の推進とロットの確保
キャベツ	・加工業務用途に係る品種選定や取組に係る研鑽の実施	加工業務用需要に応える安定生産
だいこん	・規模拡大等に向けた省力化機械導入の検討	省力化による生産・出荷量の維持・拡大
きゅうり	・施設の環境制御による生産量増加及び品質向上に向けた実証	生産性向上によるロットの拡大

「食のおもてなし力向上事業」の結果と展望

流通販売課 農業ビジネス推進班
主事 玉野 翔太

2020 年東京オリンピック・パラリンピックを控え、農林水産直売所等のおもてなし力向上を図るため、平成 29 年 11 月～平成 30 年 1 月の間、県内各地域 36 施設の農林水産直売所等についての接客状況などの現状を調査し、評価、課題抽出及び改善策の提案を行う事業を実施しました。

1 調査概要

本調査では、①農林水産物直売所、農林漁家レストラン、農林漁業体験施設（以下、農林水産物直売所等）のおもてなし力調査、及び県内観光地訪問者の農林水産物直売所等の利用促進につなげることを目的とした②ハブ観光施設（「養老溪谷」「東京ドイツ村」「野島埼灯台」「一宮玉前神社」「成田山新勝寺」を設定。）におけるおもてなし力調査、③調査員が利用者として各施設を評価する施設評価調査、④非来訪者調査（インターネット調査）の 4 つの調査を行いました。特に、①農林水産物直売所等のおもてなし力調査では、県内の 36 施設の農林水産物直売所等を調査員が訪問し、来訪客へ対面式で各施設の接客状況等の調査を行いました。

2 調査結果

これらの調査の結果、農林水産物直売所等への来訪者は、表 1 のとおり県内居住者が 66.7%を占めていましたが、ハブ観光施設を訪れている人の半数以上は県外という結果で、農林水産物直売所等にとっての潜在的な顧客は十分にいることが判明しました。特に、ファミリー層は、ハブ観光施設を訪れてはいるものの、農林水産物直売所等に立寄っている比率が低いと考えられるため、今後、ターゲットとして認識する必要があり、その際には、日帰りであるケースが多い点から、そのまま持ち帰ることを考慮した農林水産物の新鮮さが鍵になることが示唆されます。

施設設備については、トイレの利用を農林水産物直売所等の利用目的に挙げる人が 14.8%いることから、場合によっては改善の検討が必要という結果になりました。

また、スタッフ対応について、声掛け挨拶や笑顔といった基本的な対応マナーは全体の 3 割が「とても満足」と満点回答でありましたが、一方、他商品やメニューのお勧めなどといった少しハードルが高いコミュニケーションの評価については低い傾向にあり、今後の課題となりました。

なお、非来訪者調査（インターネット調査）において、過去におもてなしを感じた農林水産物直売

所等の項目で表 2 のとおり千葉県は群馬県に次いで 2 位であり、他関東圏と比較して比較的優位であるとともに、3 位が栃木県、4 位が茨城県であることから北関東の各県とライバル関係にあることが判明しました。

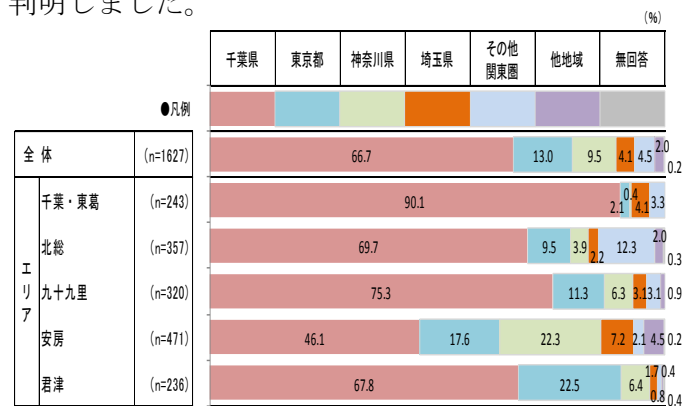


表 1 回答者の居住地

(①農林水産物直売所等のおもてなし力調査)

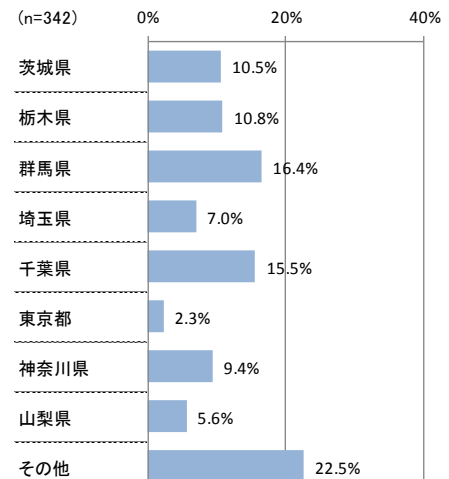


表 2 おもてなしを感じた農林水産物直売所等の場所

(④非来訪者調査 (インターネット調査))

3 今後の展望

千葉県では、今年度、今回の調査結果で明らかになった、おもてなし力を向上させる上での課題等を改善することなどを目的にした研修会を開催するなど、県内農林水産物直売所等を引き続きサポートしていく予定としています。

平成29年度における農地中間管理事業の実績及び今後の関連政策について

公益社団法人千葉県園芸協会
農地部 (農地中間管理機構)

昨年度の農地中間管理事業の実績は、皆さまの御理解及び御協力により、貸し借りの単年度面積が1,000haを超えました。本年度は5年目を迎える一つの節目の年であり、国では次年度以降の本事業について見直しをする予定です。当協会においても、皆さまが御活用できるよう、更なる事業推進に努めてまいりますので、よろしくお祈りいたします。

1 平成29年度の実績について

4年目を迎えた平成29年度の農地中間管理事業の実績は、全県で1,060haを借り受け、1,128haの貸し付けが年度内に行われました。前年度の実績と比較すると、借り受けが約5割増(平成28年度716ha)、貸し付けが約2倍(平成28年度569ha)となりました。さらに、貸付面積のうち610haが新たに担い手への貸し付けとなり、前年度の413haより増加し、担い手への集積が進んでいます。また、簡易な整備を行う際に、耕作者に対して助成する「農地耕作条件改善事業」については、8地区(計30ha)実施し、5地区(計23ha)完了しました。推進面では、県内10の農業事務所に駐在する職員を7名から10名に増員しました。本年度は更に3名増員し、13名体制でより現場に密接した対応を進めていきますので、御気軽に御相談ください。

2 今後の農地中間管理事業関連政策について

(1) 新たな基盤整備事業がスタートしました。

国では担い手への農地の集積・集約化を推進するために、農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者の申請・同意・費用負担によらず、都道府県が実施する「農地中間管理機構関連農地整備事業」を本年度からスタートしました。本事業は次の5つの要件を満たす又は達成する必要があります。①事業対象農地の全てについて、農地中間管理権が設定されている。②事業対象面積が10ha以上(中山間地域等は5ha以上)である。③農地中間管理権の設定期間(機構への貸付期間)が、事業計画の公告日から15年間以上である。④事業対象農地の8割以上を事業完了後

5年以内に担い手に集団化する。⑤事業実施地域の収益性が事業完了後5年以内(果樹は10年以内)に20%以上向上する。また、この他にも転用防止措置として、農用地地区からの除外や農地中間管理権の解除について規制等が設けられています。なお、本事業は、工事費の地元負担は求めていませんが、調査費等については地元負担が発生します。農地整備は地域農業の発展・安定に対して重要な要素となりますので、地域の皆さまで御検討していただければ幸いです。なお、その他詳細な内容等がございますので、まずは、最寄りの農業事務所に御相談ください。

(2) 現行の機構集積協力金制度が最後の年となります。

個々の出し手農家の皆さまや地域でまとまった形の皆さまが農地中間管理事業を利用していただいた場合、要件が合えば補助金(機構集積協力金)の交付を受けることができます。本年度は国が示す制度の変わり目の年で、平成31年度以降は見直しとなり、どのようになるのかは現在示されていません。本年度の補助金の交付を受ける場合は機構への貸し付けが10月までに行われることが必要ですので、お早めの御相談をお願いします。

お問合せ先

- (1) 公益社団法人千葉県園芸協会 農地部
TEL : 043 (223) 3011
E-mail : nouchibu@chiba-engei.or.jp
- (2) 農地が所在する市町村の農政担当課
- (3) 最寄りの農業事務所企画振興課

野菜ニュース



夏どりコカブの優良品種

農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所
畑地利用研究室 上席研究員 高野 幸成

平成 28 年に開催された夏どりコカブの千葉県野菜品種審査会において、収量性が高く、外観品質に優れる「KS432」(株トーホク)、「KS546」(同)、「MSK-1195」(株武蔵野種苗園)が優良品種に選定されました。

1 はじめに

千葉県のコカブは、作付面積が全国第 1 位の 963ha (平成 27 年) で、柏市及び香取郡東庄町を中心に複数の作型を組み合わせて周年栽培されています。この中で、夏どりコカブは、生育に不向きな高温時に作られるため、最も栽培が難しい作型です。産地では、収量性が高いことに加えて、外観品質が優れ、収穫調製作業がしやすい葉軸の強い品種が望まれています。

そこで、夏どりコカブの優良品種を選定するため、平成 28 年に第 64 回千葉県野菜品種審査会が開催されたので、その結果を紹介します。

2 栽培概要

審査会には 10 品種が出品され、栽培は当研究室(香取市)の黒ボク土露地畑ほ場で行いました。10a 当たり施肥量は、県の施肥基準に基づき、窒素 3 kg、リン酸 6 kg、加里 6 kg としました。播種は 7 月 21 日で、栽植様式はベッド幅 120cm (条間 17cm、株間 15cm) の 6 条播き、通路幅が 60cm です。コナガ等の防除のため、播種直後から収穫ま

で、目合い 0.4mm の防虫ネットでトンネル被覆を行いました。

3 審査結果

審査は、8 月 26 日に行われました。コカブの草姿、根部の肥大性や外観品質等を審査した結果、3 品種が入賞し、第 1 位が「KS432」(株トーホク)、第 2 位が「KS546」(同)、第 3 位が「MSK-1195」(株武蔵野種苗園)となりました(表)。

4 入賞品種の特徴

入賞した 3 品種は、いずれも収量性が高く、総収量が 2,400kg/10a 以上でした。また、葉軸が強く、根部の詰まりや形状が良好で、外観品質が優れていました。特に、第 1 位の「KS432」は、全体的に横縞症の発生が多かった中で、その発生度が最も低い品種でした。

5 おわりに

審査会では 1 作の結果のみで評価しているので、現地導入に際しては、試作を行い、年次間差等を確認することが望まれます。

表 第64回千葉県野菜品種審査会における出品品種の収穫時の生育、収量、葉軸の強度及び根部外観品質

出品番号	順位	品種	出品社名	葉重 (g/株)	根重 (g/株)	総収量 (kg/10a)	葉軸の強度	根部つまり	根部形状	横縞症発生度
1				32	68	2,200	やや強	やや不良	中	82
2				31	68	2,200	やや強	やや良	中	56
3				39	64	2,300	強	やや不良	やや不良	49
4	2	KS546	株トーホク	42	71	2,500	強	やや良	良	51
5				36	68	2,300	強	中	中	49
6				40	77	2,600	強	中	やや良	36
7				42	65	2,400	強	やや不良	やや不良	30
8				31	74	2,300	中	やや不良	やや不良	28
9	1	KS432	株トーホク	41	69	2,400	強	やや良	良	27
10	3	MSK-1195	株武蔵野種苗園	39	70	2,400	強	やや良	良	43

注 1) 平成28年 7月21日播種、8月26日収穫(審査)

2) 葉軸の強度は強～弱、根部のつまり及び形状は良～不良の5段階の遠観評価

3) 横縞症発生度は、発生程度を指数0(無)～4(大)の5段階で判定し、次式から算出
発生度 = (Σ(指数×株数) / (調査株数×4)) × 100

4) 入賞品種以外の品種名は、非公表

頑張る産地



J A いすみ花き出荷組合の取組

夷隅農業事務所 改良普及課
普及指導員 鈴木 奈緒

J A いすみ花き出荷組合は高品質なスプレーストックの産地ですが、高齢化により組合員が減少するとともに、出荷量も減少しています。そこで高齢になっても生産を継続できるように、省力的な定植方法や、ストックと新規品目のケイトウを組み合わせた経営モデルの導入を推奨しています。

1 水稲と花きの複合経営

J A いすみ花き出荷組合は、組合員の多くが水稲と花きの複合経営を行っており、水稲育苗ハウスを利用した12～3月出荷のスプレーストックの産地となっています。個々の経営は小規模ですが、組合全体で講習会やほ場巡回による技術向上に努め、他産地よりも厳しい出荷規格を守ることで、市場からはボリュームのある高品質な花の産地として高い評価を得ています。

一方で組合員の高齢化により、組合員数、出荷量が減少していることから、新しいチャレンジを行い産地の維持に取り組んでいます。

2 作業省力化の取組

ストック栽培では、定植が体への負担が一番大きい作業であることから、チェーン状になったペーパーポットに苗を作り、専用の機械で定植を行う方法を導入しています。



チェーンポットの定植機

この方法であれば、膝や腰を曲げずに定植ができるため、高齢になっても栽培を継続できます。また、作業時間が大幅に短縮できるため、水稲収穫と定植作業が重なる組合員には、時間を有効に使える点でも好評です。

3 品評会の開催

組合では平成29年からスプレーストック品評会を開催し、組合員と関係機関の採点により主力の3品種ごとに最優秀賞を選んでいきます。市場関係者からは「優劣がつけ難いほど、全体の品質が高い」と評価されています。組合員の栽培技術と出荷品質の向上、そして市場へのPRにつながっています。

4 新規品目の導入

組合では、水稲育苗からストック定植までの期間に、空いたビニールハウスで栽培できる品目として、ケイトウの栽培、出荷を推奨しており、講習会、ほ場巡回、出荷査定会を実施して栽培技術の向上を図り、ストックとケイトウの新たな経営モデルの定着を図っています。

ケイトウは播種から3ヶ月と短期間で出荷ができ、肥料等必要な経費が少なく、栽培の手間がかからない品目です。栽培中に土壌水分が多いと長大化しやすく、水管理に注意が必要なため、ハウス栽培での7月上旬出荷が行われています。今後は露地での栽培や秋出荷に取り組む組合員もおり、出荷量、時期の拡大が期待されます。



箱詰めされたケイトウ

「テントロール」の販売について

千葉県立農業大学校 農学科
准教授 清水 敏夫

日本国内に生息するナミテントウやナナホシテントウなどの肉食性のテントウムシ類は、各種アブラムシの天敵として知られています。しかし、その成虫は高い飛翔能力を有するため、ほ場に放飼してもその場に留まらず、減農薬農法における生物的防除資材としての利用が困難です。さらに、アブラムシ類は、多くの作物に大きな損害を与える重要な害虫であり、加えて化学合成農薬に対する抵抗性の発達が問題となっています。そこで、千葉県立農業大学校では、土着のテントウムシを飛翔制御し、特定防除資材として販売を始めました（商品名：テントロール）。テントウムシの飛翔制御方法は、翅に樹脂を付けることで行い、この樹脂は2か月ほどで自然と剥がれ、再び飛ぶことができ、自然に帰ることが可能となります。テントウムシに配慮した環境に優しい新技術です。このテントロールは、1匹で1日に100匹以上のアブラムシを捕食します。



テントロール

左：ナナホシテントウ

右：ナミテントウ

販売価格及び商品に関するお問合せ

〈販売価格〉500円／10匹

〈お問合せ〉

千葉県立農業大学校 病害虫専攻教室

電話番号：0475-52-5121

受付時間：午前9時～午後4時30分（土日、祝日、年末年始は除く）

※学校であるため、販売担当者が講義中などの場合は、折り返し御連絡します。

千葉県野菜品種審査会の開催について

生産振興課園芸振興室

千葉県野菜品種審査会は、県内の野菜産地に適した優良品種の選定と、野菜種子の素質改善を通じ、県産野菜の品質向上と野菜産地の振興を図ることを目的として昭和27年から開催しています。

○第66回 千葉県野菜品種審査会の開催計画

平成30年度は、ほうれんそう、えだまめ、ブロッコリー、キャベツ(寒玉系)の4品目を対象に実施します。審査会の開催場所、審査時期等は以下のとおりです。

第66回千葉県野菜品種審査会開催計画

品目	作型	は種期	審査時期	ほ場地	担当機関
ほうれんそう	夏どり栽培	8月中旬	9月下旬	野田市	東葛飾農業事務所
えだまめ	秋どり栽培	8月上旬	10月上旬	千葉市	農林総合研究センター 野菜研究室
ブロッコリー	秋冬どり栽培	7月下旬	10月中旬 ～11月上旬	旭市	農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室
キャベツ (寒玉系)	冬どり栽培	8月下旬	2月上旬	袖ヶ浦市	君津農業事務所